

HOW TO USE TAXES

所沢市立中央中学校

三年 横屋 正紀

この前、テレビで税金についてとても興味深い話を聞いた。
二〇一〇年に出生率が世界最低レベルだったハンガリーが、少子高齢化対策として、次の税に関する政策がとられたということだった。「子供を四人産むと、所得税が免除。」これにより、一・二五だった出生率が、二〇二二年には、一・六一にまで上昇している。

ここで私が言いたいことは、税金は国民の生活を豊かにしてくれる、未来へ向けた政策ではあるが、ハンガリーのように、本来とは逆向きに利用することで、さらに先の未来のために使うことができるのではないか、ということだ。もちろん、今の税金の使用方法に反対しているわけではない。むしろ感謝している。年に一度は世話になる病院、毎月のように利用する公園、そして平日はほぼ毎日通う学校や使用する教科書。これらすべてが、税金によるものである。税金は私たちの生活には必要不可欠である。ところがどうだろうか。このまま少子高齢化が進めば、自然と人口は減少、分母が減少するわけだから、集まる税金も減少する。すると、いずれは国の維持に必要な金額にとどかなくなる。こうなると政府は「集まる金額を上げたい」となるから、おそらく税金は上がるだろう。税金が上がれば、生活の負担は増える。そのため結婚、出産し、家族をもつ人は減る。子供が減るところか、

結婚する人さえ大幅に減る。さらに人口が減少し、始めに戻る。この最悪の負のローテーション、決して私たちに関係ないとは言えない。私は専門家でないから、正確なことは言えないが、この負のローテーションは私たち子供が大人になった、その時に起こっても何もおかしくはないのではないだろうか。ここで有効なのがハンガリーで行われた、税金を逆に利用する政策である。確かに人口減少、少子高齢化が進む今、結婚や出産によって税金を減らす政策は難しいのかもしれない。しかし、さらに人口が減少したときに行うよりはましだろう。未来にこの税金のありがたみを残すためにも、今は我慢の時期だろう。税金をあまり払う立場になく、将来の日本を支える立場である私たち子供が、特に、税と将来について考えなくてはいけない存在ではないだろうか。そのためにも、少しでも税に興味、関心を持つことから始めることが重要であると考える。